Ｂ級ご当地グルメとまちおこし

～「かほく冷たい肉そば研究会」の事例をもとに～

齋藤 沙友希

□推薦　　指導教員　三原　容子

ゼミでは卒論のテーマについて、２年生秋の募集段階からすでに、「歴史分野に限らない。真剣に楽しく取り組み、達成感を味わえるようなテーマに出会うことが大切である。」と呼びかけている。数百年から数年と、歴史のない事柄は一つもない。歴史のゼミと見られているようだが、何でもオッケーなのだ。

しかし、学生に勧めるテーマというものがある。ご当地ネタである。その地域に生まれ育ったという良い条件を活かさない手はない。文献調査能力ならばプロの余所者研究者にかなわないかもしれないが、方言のリスニング能力や調査協力者の人脈は、地元の人間が圧倒的に有利である。

ご当地ネタ以外の場合でも、なるべく学生本人が消化吸収しやすいテーマを勧めることにしている。就職活動が終了するまでは相当の時間やエネルギーをとられる。また、いつ終了するかの予測はできない。限られた時間で卒論を作成し一定の成果を挙げるには、理解しやすい領域の方が良い。一見してやさしそうなテーマでも、読み手にわかりやすくて説得力がある論文を書くのは、初心者の学生にとって容易ではない。

加えて、なるべく楽しいテーマを勧めている。苦しい就職活動の中で、卒論によって気分が落ち込むことを避けたいからである。

今年度の卒論は７本、それぞれ個性的で面白いテーマを扱っている。推薦論文以外のタイトルを挙げて、簡単な説明を付けておく（五十音順）。例年と同様、私のサイトにすべて掲載しているので、関心のある方は「ようこそ三原研究室」で検索して研究室のホームページを覗いていただきたい。

五十嵐 聡美「動物園に関する制度と現状について」：大規模な動物園のある

都会とは異なり、東北地方出身の学生たちが幼少期からどのように動物園体験をしてきたのだろうと調べ始めたものの、動物園が実は博物館の一種であるという制度的な問題に気づいて、制度や現状を中心に述べる論文となった。

小川 健太「ピザ、二つの海を渡る」：長く携わってきたアルバイトの関係からテーマを選んだ。宅配ピザにはイタリアからアメリカへ、そして日本へという歴史がある。従事した経験を活かした現場の話も記されている。

齋藤 和「あつみ温泉の歴史とこれから」：実家が数百年の歴史のある老舗温泉旅館であることを活かして、鶴岡市のあつみ温泉についてまとめた。

佐藤 由香理「山辺町要害地区の養鯉業」：山形県で養鯉業と言えば置賜地方が有名であるが、実は山辺町も生産地である。実家の養鯉業がまもなく幕を閉じることになっているので、歴史だけではなく具体的な養殖方法も記録した。

丸岡 祥子「三川町における全国方言大会」：一時は全国的に有名だった山形県三川町の「全国方言大会」であるが、中止になって数年で、早くも知らない人が多いようだ。一部始終をまとめている。

三浦 拓己「赤湯ワインについて」：山形県内のぶどう栽培とワイン製造の中心地の一つが赤湯である。地元の業者からの聞き取りを活用して、赤湯ワインの全体像を描いた。

７本のうち１本だけというので、齋藤沙友希さんの論文を選んだ。出身地への愛情にあふれていて、地元の方への聞き取りを熱心に行なっていることが第一の理由である。加えて、関連する先行研究（そもそも非常に少ないテーマだが）にも当たり、調べた結果を不特定多数の読み手にわかるよう丁寧に説明していると評価したからである。

「冷たい肉そば」によるまちおこしの状況を読んでいると、笑い（smile ではなく laugh である）を抑えることができない。全国ナンバーワンを取ることができなくても、わがまちのグルメによって、ここまで住民が楽しく盛り上がるならば、もうそれだけで意味があるという気持ちになる。そのように思わせるシステムについても、論文を読むと理解が進む。

今回の卒論指導の過程で、私は好奇心から、冷たい肉そばを食べるために河北町に行き、あつみ温泉に泊まりに行き、ピザ専門店に食べに行った。指導する教員だけでなく、読んでくださる方々が、歴史や生活への関心を深め広げてくだされば幸いである。